単P紹介

うちの学校のこんなトコ紹介します!

合併元年

西区【小島小学校】

小島校区の南東には「御坊山」という雑木に覆われた小高い山があります。この山は、なまず伝説でも有名ですが、昔は海に浮かぶ小さな島だったため、この地に小島という地名がついたと言われています。

本校に対する地域の思いは強く、保護者、地域、学校の連携・協力が充実しており、三者が一つになって本校の発展・子どもの健全育成を目指していることは、今も昔も変わりません。

運動会やどんどやはもちろんのこと、「干潟体験」「地引き網漁業体験教室」や、「おしま祭」など、本校独特の地域交流が盛んに行われています。

小島小学校は平成29年度から松尾西小学校・松尾東小学校・松尾北小学校の3校と合併しました。合併後の最初の運動会も大いに盛り上がりました。

1年間の行事を通して様々な改善点が出てくるかと思いますが、新生小島小学校として多くの方々のご協力・ご意見を取り入れていきたいと思います。

(小島小学校 坂本 卓也)

あたりまえが輝く

北区【龍田中学校】

龍田中学校は、平成5年、熊本市立楠中学校から分離し設立されました。平成30年度には創立25周年を迎えます。近くには、白川や立田山、武蔵塚公園があり、自然や歴史を感じる環境の中で576名の生徒が学んでいます。校章の3本の線は「白川」と「全学年の協力」を示しています。それぞれの流れは「創造」「誠実」「剛健」を表し、それぞれが1本の川になった時、「感動」が生まれる校訓を示しています。

平成24年度「九州北部豪雨」の洪水。昨年度の「熊本地震」。普段の「学び舎」や「日常」とは異なった光景と毎日に大きな衝撃を受けました。昨年度の体育大会は、地震のため半日に短縮されましたが、今年度は晴天の中、「百花繚乱」のスローガンのもと、生徒たちの熱い思いのこもった体育大会が、予定通り行われました。キラキラ光る笑顔や汗、涙。輝く姿が、競技だけではなく応援団、それぞれの係、各団のテントの中、すれ違った際の挨拶…　多くの場面で見られました。先生方、保護者からは、「我がクラス」「我が子」に関係なく子どもたちへの温かい声援や眼差しが送られ、感動の1日になりました。輝き方は違っても、龍田中学校では学校生活の様々な場面で生徒の輝く姿が見られます。

龍田中学校は開校以来、龍田小学校との一小一中の関係でしたが、昨年度龍田西小が開校し、今年度は二つの小学校から194名を迎え入学式が行われました。1年ぶりの再会を喜んだ生徒や保護者も多く、笑顔の入学式となりました。二つの小学校の中学校のP(保護者)が一つの中学校のPに。新たなPTAのスタートを感じる1日となりました。

私たち龍田中PTAは、学業や部活動に励む子どもたちが、輝き充実できるようなサポートはもちろん、小さな頃から地域の夏祭りなど、積極的に参加する子どもたちの「龍田のまちが大好き」の思いを大切にしながら、今後、龍田小、龍田西小、地域との連携を大切に活動を進めていきたいと思います。

(龍田中学校 益田 美由紀)

ひとりひとりができることを!

東区【秋津小学校】

秋津小学校は、秋津川のほとり、緑あふれる木々と田園地帯に面した横井小楠ゆかりの地として、歴史かおる地域です。

秋津小キャラクター「秋ツリー」「しょうなんくん」

子どもたちが考えた「秋ツリー」は、いきものを思いやるこころ、こつこつと学ぶ秋津っ子のマスコット。

「しょうなんくん」は横井小楠の教えを現代に伝え、復興に向けた応援団として、秋津小スローガン「元気　やる気　根気」をかかげます!

おやじパワーを集結「笑男会」

「できるときに、できるしこ」を合言葉に、廃品回収や運動会・バザーでの活動協力など、男性保護者の活躍の場となっています。

益金をもとに部活動の活動資金を支援しています。

地域で見守る交通安全

通学路では交通指導員のみなさんが、子どもたちの安全な登校の見守りをしていただいています。

長年、活動している貝島さんは、子どもは地域の宝とのおもいを胸に、一人ひとりに、名前を呼んで声をかけ、子どもたちも、そんな姿にこたえるように大きなあいさつをかえしています。

熊本地震

そうした中で発災した熊本地震では、多くの方々も被災し、通学路も道がでこぼこになるなど、今なおその傷跡がのこっています。

PTAの活動も、負担感を少なくし、学校と相談しながら、行事・活動に応じたボランティアを募るなど、一歩ずつあゆみを進めました。

復興にむけた「あきつ未来基金」

熊本地震を受けて、日本PTA全国協議会をはじめとして各地・団体から多くの義援金をお預かりしました。そうした支援の輪の受け皿として「あきつ未来基金」を創設し、民間助成金などとあわせて、子どもたちの観劇体験や、体育館の時計の修理に活用しました。

「タオル防災頭巾づくり」

熊本地震の経験をふまえ、防災意識啓発を目的に、タオルを使った防災頭巾を6年生の家庭科で製作。モデル的な取り組みとして注目されています。

白タオル3枚とカラータオル1枚を重ねてぬい合わせて作ります。保護者製作ボランティアや地域の方々への製作協力呼びかけを行っています。

(秋津小学校 大津 貴史)

ふんえん

隠れているヒント

将棋の藤井聡太四段の連勝記録が話題になりました。棋界の寵児の出現に、連日、幼少期の玩具や、子育ての方針など、天才誕生の秘話が特集されていました。

その中で、私が気になったのは、プロ棋士の能力を検証する話でした。彼らは、数秒見ただけで、指された盤面を再現できるというお話でした。ただし、それは、ルールどおりの手順で指されていることが条件だそうです。それはつまり、決して感覚・感性ではなく、積み重ねてきた経験に基づき、頭の中で正しく検証された結果ということを示しています。

縁遠い話のようにみえますが、私たちも日常、このような場面に遭遇しています。子どもを叱る時、パッと見て、数秒後には、判断を下していること、多くありませんか?再現結果(子どもが怒られること)は、変わらないかもしれませんが、その手順をきちんと検証すれば、何手目がダメだったのか、子どもに気付かせることができるのではないでしょうか。(もちろん、結果が違っていたら、素直に謝りましょう。)

そして、同じことが、子どもたちの問題やPTAでの問題にも言えると思います。残された事実や状況にのみ、着眼しがちですが、そこに至るまでの経緯・歴史を知らずに判断して、問題は解決できるでしょうか?一手一手を検証して初めて、見えてくることもあると思います。そしてそれは、互いに相手の立場になって、するべきではないでしょうか。解決のヒントは、『盤面の中』にあるはずです。

(熊本市PTA協議会副会長
武蔵小学校PTA会長　夏木 良博)

編集後記

くまもと市PTA会報125号をお届けいたします。広報委員会では、毎年2回の会報を発行しております。会員の皆様に、熊本市PTA協議会の活動や、主催する研修会、各区単位PTAの特色ある活動など幅広くお伝えできることを目指して、委員一同、取り組んでまいりました。

文字通り嵐のように、台風3号が駆け抜けていく中、1学期の終業式までに配付するべく、ギリギリの編集作業を続けてきました。本号は「守・破・離」にならい、まずは例年と同じ形「守」で、というと聞こえはいいですが、実際は、レイアウトなどを変更する余裕はありませんでした。次号では、少しでもチャレンジ「破」ができればと考えております。

最後に、125号を担当いただきました前期編集担当の広報委員、ならびに常任理事の皆様には、ご協力をたまわり心より感謝申し上げます。今後も本広報紙が単Pや市Pの活動を広げる一助となるべく尽力する所存です。より多くの方々にご覧いただけたら幸いです。

広報委員長 西本 彰文(龍田西小学校)

125号編集委員
(順不同／敬称略)

林田　竜城(銭塘小)
田平いづみ(奥古閑小)
森　長浩(川尻小)
徳山　理恵(田水中)
坂本　卓也(小島小)
益田美由紀(龍田中)
大津　貴史(秋津小)
川東　弘昭(健軍小)
古閑　征一(託麻原小)
尾﨑　直子(力合中)
村上　弥生(龍田西小)
夏木　良博(武蔵小)
安楽理恵子(麻生田小)
小川内水穂(五霊中)